

令和7年度 みやき町立中原中学校 学校だよりNo.1



蒼鷹

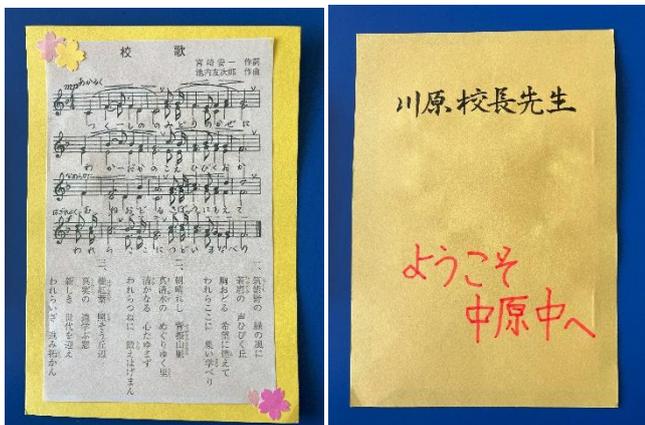
～青空を大きく舞う
鷹のように

発行：令和7年4月30日（水） （文責）校長 川原文

令和7年4月から本校の校長に着任しました 川原文（かわはら あや）と申します。前任は、陶器市で有名な有田町の西有田中学校でした。ここ、みやき町は初めての勤務になります。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、今年度の校長だよりのタイトルを「蒼鷹」としました。一般的な国語辞典にこの言葉は載っていませんが、由来は、本校の校歌にある「若鷹の声ひびく丘」のという一番の歌詞にちなんで「鷹」の文字を入れました。この歌詞は更に、「…胸おどる希望に燃えてわれらここに集い学べり」と続きます。ここ（中原中）に集い、ともに学びながら志高く成長し、青空に大きく羽ばたいて巣立ってほしいという願いを込めて、「蒼」という文字を初めに使いました。読むなら「そうよう」と読んでいただければと思います。

4月7日の着任式の折に、生徒の皆さんから転入者一人一人に↓のようなものをいただきました。



これまで何度かの転勤の経験がありますが、このような歓迎を受けたのは初めてのことでした。とてもうれしく、とても感動しました。それで、ぜひ、校歌にちなんだ一語を入れたいと思い、このタイトルにしました。

中原中の生徒は、多くの方が、人懐こく接してくれます。それを一番よく表しているのが挨拶です。始業式の次の日から、通学途中の生徒が、私を見つけると、自分から「おはようございます」と声をかけてくれま

した。それが、一人や二人ではないところがすばらしいところです。知らない土地に来たばかりの者にしてみると、こんな風に受け入れられると本当に安心感が芽生えます。その安心感があってこそ、がんばろう！という意欲につながるものだと思います。生徒のため、保護者・地域のため、職員のために尽力しなければ、と改めて決心をしたところです。

今年度の中原中は、3年生 65名、2年生 75名、そして、4月10日に入学してきた1年生 69名、合計 209名の生徒が在籍します。教職員は、校長・教頭から教諭・講師・事務職員の 25名。町費職員 7名、総勢 32名のスタッフで生徒の皆さんを支えています。

学校は、「すべての生徒の**安全と安心、人権**が守られる場所」でなければならないと考えます。これは職員に対しても同じことがいえます。そのうえで、生徒・職員が一つになって、めざす学校像に近づいていけたらと思っています。

では、そのめざす学校についてです。このたよりの上の方にも記しています学校目標を、前年度に続き、

「ふるさと中原と共に輝く志をもった生徒の育成～自律・協働・挑戦をキーワードとした学校づくりを通して～」

としました。

始業式では、この三つのキーワードについて、話をしました。

○ 自律 とは？

人から言われるのではなく、自ら、気づく・自分で考える・自分で選ぶ・決める・行動することです。

○ 協働 とは？

学校生活でも、社会に出ても、他の人と力を合わせて困難を乗り越える場面がたくさんあります。そこにいる仲間・同僚と、力を合わせて、より良い方向に物事を動かしていくことです。一人だと・・・どうかな？と思うことも、力を合わせるとできそうなこと、できることがたくさんです。あきらめず、いろいろな人と知恵を出し合い、力を合わせることが大事です。

○ 挑戦 とは？

人からどう思われるか、や、失敗したら嫌だなあ、と考えて、立ち止まっているよりも、前に進んでみるのが大事だということです。失敗することがあって

も、「協働」する力で、お互いに支えあいながらみんな
で成長していけばいい、と思いませんか？

今年、この三つの言葉をいろんな場面で意識して、
行動してみましょう。そして、この三つを皆さんに「自
律する力」「協働する力」「挑戦する力」、として身に付
けてほしいと思います。

令和7年度入学式 4月10日 入学おめでとうございます

前述しましたように、今年度は69名が入学してく
れました。これから、69人が仲睦まじく、中原中学校
の一つの世代を作ってほしいと思います。

入学式では、校訓の話をしました。

本校には、「**英知 忍耐 誠実**」

という校訓があります。

「**英知**」とは、新しいアイ
ディアを生み出すことがで
きる力のことです。誰かか
ら言われたからやるのでは
なく、自分から取り組めるような「興味あること」を
見つけてほしい。

写真

次に「**忍耐**」。「忍耐」と言っても、単に「耐え忍ぶ」

「我慢ばかりする」とい
う時代ではありません。
自分自身が見つけた「興
味あること」や、夢や目標
を達成するために、粘り
強く努力し続けるには、
「何事も楽しむことを忘
れない」気持ちが大切です。どんなにきついことが立
ちはだかろうとも、それを乗り越えた先をイメージし
て頑張る力をつけてほしい。

写真

最後に、「**誠実**」です。「誠実」とは、言葉や行動に
嘘・偽りがなく、相
手を思い、心がこ
もっていることを
言います。どんな
に優れた能力をも
っていても、周りの人のことを考えず、自分の思いだ
けにとらわれては誰かを傷つけることもあるでしょ
う。「人とのつながり、仲間とのつながり」を大切に

写真

する中原中学校の一員であってほしい。

入学式ではこのような話をしたのですが、実はこれ
は、3月に卒業した旧3年生が残してくれた言葉に着
想を得ています。中学校での学びを的確にとらえたす
ばらしい解釈だと思います。先輩からのバトンを受け
取り、次の世代へとつないでほしいと思います。

全学年、「チーム担任制」を 導入しています

今年度も、本校では、一つの学級に担任を複数配置
する「チーム担任制」を導入しています。

「チーム担任制」をとる理由（メリット）は、主に
次のような点です。

【生徒・保護者にとって】

- ①複数の教員で多面的に学級の一人一人の生徒を見
るため、小さな変化、トラブルの予兆に気づきやす
くなるとともに、多様な見方で受けとめ、対応する
ことができる。
- ②複数の教員と関わる事によって、“話しやすい先生”
“気が合う先生”を見つけやすくなり、教育上の相
談を一人固定の担任だけでなく、複数の担任から選
んで相談することができる。
- ③保護者からの相談も複数の窓口があることで、より
迅速な対応ができ、事案の深刻化を防ぐことにつな
がる。

【学校・教師にとって】

- ①教員同士が日常的に連携していくことで、互いに指
導技術を学ぶ場となり、教員としての資質向上を図
ることができる。
- ②業務を分担することによりこれまで一人一人で行
っていた業務の効率化を図ることができ、生徒と向
き合う時間が生み出せる。
- ③教員の得意分野を生かし、工夫し合う仕組みがで
き、教員自身の学校運営・学級経営への参画意識が
向上し、学校全体の教育力の向上や魅力的な学校づ
くりにつながる。

上述したメリットに対して、既に導入した学校では、
「誰が担任（相談相手）なのかははっきりしない」「学級
での教員の話が重複して、帰りの会等先生の話が長く
なる」「教員間での情報共有に手間がかかる」なども課
題として挙げられています。実は、2クラスを学年職
員全員で交代して担任するやり方が真の意味での「チ
ーム担任制」であり、そこまでは至っていません。

こうした課題も今後検証し、可能性を広げていけた
らと考えています。